

## 病害虫発生予報 第3号

(向こう1か月間の発生予報)

### I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並	並	
	さび病	全域	並~やや多	並	
	うどんこ病	全域	並~やや多	やや早	
水稲	葉いもち	全域	並~やや多	並	
	縞葉枯病・黒条萎縮病 (媒介虫: ヒメトビウンカ)	全域	並~やや多	並	
	ツマグロヨコバイ第1回成虫 (黄萎病)	全域	並	並	
	ニカメイチュウ第1世代幼虫	全域	並	並	
	イナゴ	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
	イネミズゾウムシ	全域	やや多	並	
りんご	黒星病	全域	並~やや多		
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	やや多		
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴコカモンハマキ (ハマキムシ類)	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並~やや多	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	並	
なし	黒斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	

もも (ネクタリンを除く)	シンクイムシ類	全域	並~やや多	並	
	カメムシ類	全域	多	並	
	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	やや多~多		
	灰星病	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類 (モモシンクイガ)	全域	並	並	
ぶどう	ハマキムシ類	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	多	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
トマト	べと病	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並~やや多	並	
きゅうり	輪紋病	全域	並~やや多	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
アブラナ科野菜	灰色かび病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
はくさい	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	並	並	
レタス	ピシウム腐敗病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	すそ枯病	全域	並	並	
	べと病・菌核病・灰色かび病	全域	並	並	
アスパラガス	斑点細菌病	全域	並	並	
	軟腐病・腐敗病	全域	並	並	
野菜・花き 共通	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウホクビガハムシ	中山間	並	並	
	アザミウマ類	全域	並~やや多	並	
	アブラムシ類	全域	並~やや多	並	
	ハモグリバエ類	全域	並~やや多	並	
	オオタバコガ	全域	並	並	
	ヨトウガ類	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

## II 向こう1か月の気象予報（長野気象台 6月11日発表）

### 1 予想される向こう1か月の天候（6月13日～7月12日）

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

### 2 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

### 3 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

## III 麦

### 1 赤かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 6月上旬の巡回調査ほ場では発生は確認されていない。
- 気象要因(+)向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- 防除上の留意点
  - 収穫期に病徴が発現することがあるので、収穫まではほ場巡回を行い発生の確認を行う。
  - 発生ほ場の収穫物の扱いについては、関係者と協議する。

### 2 さび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 6月上旬調査で、主に南信地域、中信地域でコムギ赤さび病の発生が増加している。
- 気象要因(+)向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- 防除上の留意点
  - 赤さび病については、発病ほ場での茎葉等の収穫物残さや、収穫漏れの麦粒(こぼれ麦)から発芽した株は次年作への伝染源となるので適正に処分する。

### 3 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

- 6月上旬の巡回調査では、南信地域、中信地域で発生の多いほ場が散見されている。

② 気象要因(+)向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 曇雨天が続くと発生が多くなる。また、遅播き、窒素肥料の過剰、追肥時期の遅れ等による軟弱過繁茂のほ場で発生が多くなるので注意する。

## IV 水稻

### 1 葉いもち

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月1～10日の期間では感染好適条件の出現頻度は比較的少ない。
- 気象要因(+)向こう1ヶ月の気象は平年に比べて気温は高く、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- 防除上の留意点
  - 補植用苗は、伝染源となることが多いため、早期に除去する。
  - 葉いもちの発生に注意し、発生が認められた場合は、直ちに防除を行う。

### 2 縞葉枯病・黒条萎縮病（媒介虫：ヒメトビウンカ）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 縞葉枯病の発生地域が拡大している。
- 昨年、ヒメトビウンカの縞葉枯病菌保毒虫率調査で、保毒虫率の高い地域がみられた。
- 昨年、7月下旬～8月中旬の気温が高めに推移し、一部の地域でヒメトビウンカの発生が多かったため、越冬虫も多いと推察される。
- 防除上の留意点
  - 麦作地帯では登熟期以降、水田への飛び込みが増加するので注意する。

### 3 黄萎病（媒介虫：ツマグロヨコバイ）

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 近年、生育期における発生は、極めて少ない状況が継続している。
- 昨年、ツマグロヨコバイの発生は一部の地域で多かったものの、全般に平年並の発生であった。

### 4 ニカメイチュウ第1世代

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- 近年、東信地域で被害が増加している。
- 上田の予察灯調査で5月5半旬、須坂市八重森の予察灯調査で5月6半旬から誘殺を確認している。
- 防除上の留意点
  - 第1世代幼虫の防除適期は発蛾最盛期の10日～15日後で、北信では通常6月下

旬頃である。

## 5 イナゴ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 前年の成虫発生量は平年並で、越冬卵量も平年並と思われる。
- (3) 防除上の留意点
- ① 若齢期の防除効果が高いので、発生が多い場合には7月上旬頃までに防除を行う。

## 6 イネドロオウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査における成虫の寄生頭数は平年に比べてやや少なかった。
  - ② 気象要因(+)向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、イネドロオウムシの増殖に適した気象条件と推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 苗箱施薬をしても、発生が多い場合には、本田防除を実施する。
  - ② カーバメート薬剤に対する抵抗性が発達している地域では、薬剤選定に留意する。
  - ③ 本田における茎葉散布剤の防除適期は、幼虫の加害初期(幼虫による葉の食害が見え始める頃)である。

## 7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬世代成虫の水田侵入時期はほぼ平年並と推測される。
  - ② 6月上旬の巡回調査では、成虫の寄生頭数や食害の多いほ場がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ① 苗箱施薬をしても発生が多い場合は、本田防除を実施する。
  - ② 要防除密度は、成苗で株当たり1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。
  - ② 被害の早期発見に努め、発生を認めたら、多発する前に「令和2年農作物病害虫・雑草防除基準」(以下「県防除基準」と略す。)により薬剤を選択して防除を行う。

## V りんご

### 1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では、一部の地域で発生が多い園地が散見される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

### 2 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では、6月上旬まで発生がみられていない。
- (3) 防除上の留意点
- ① 通常、6月中下旬頃に発生する。今後降雨が多く、多発が予想される場合は「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

### 3 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
  - ② 気象要因(+)向こう1ヶ月の降水量は、平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

### 4 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
  - ② 気象要因(+)向こう1ヶ月の降水量は、平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

### 5 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査で枝腐らん、胴腐らんが多くみられている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 定期的に園内を点検し、病斑の削り取りと薬剤塗布を行う。また、枝腐らんに早期に切除し園外に持ち出し処分する。

### 6 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 巡回調査では、新梢先端部の「心折れ」症状はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ① 第1世代成虫は6月上中旬から7月上旬に発生するので注意する。
  - ② 有袋栽培でも加害されることがある。「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除を行う。

### 7 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 越冬幼虫量は、平年並であると推測される。
- (3) 防除上の留意点
- ① 平年では、越冬世代成虫は6月上旬頃から発生し、7月上旬頃盛期となる。
  - ② 発生園では「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬頃から防除を行う。

## 8 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。  
② 気象要因（－）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。  
(3) 防除上の留意点  
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

## 9 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。  
② 気象要因（－）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。  
(3) 防除上の留意点  
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

## 10 リンゴコカクモンハマキ（ハマキムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 巡回調査のハマキムシ類の発生量はほぼ平年並であった。  
(3) 防除上の留意点  
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して、第1世代幼虫が出揃う6月中旬～下旬に防除する。

## 11 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺が多い地区があった。  
② 果そう葉への寄生は平年並みである。  
(3) 防除上の留意点  
① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を散布する。  
② 今後のフェロモントラップの誘殺状況をよく確認する。

## 12 スモモヒメシクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は平年並～やや多であった。  
(3) 防除上の留意点  
① 平年の第1世代成虫は6月下旬から7月上旬に発生するので、適期防除を心がける。  
② シクイムシ類で登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では散布間隔を10日間に縮める。

## VI なし

### 1 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 6月上旬までの発生は平年並と思われる。  
② 気象要因（＋）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。  
(3) 防除上の留意点  
① 「県防除基準」に従い、降雨前の予防散布を実行する。

### 2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 県予察ほにおける果実への発生は平年並に推移している。  
② 気象要因（＋）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。  
③ 巡回調査において果実への被害が平年並にみられている。  
(3) 防除上の留意点  
① 「幸水」は果実肥大期に感受性が再び高まり、感染しやすくなる。  
② 「県防除基準」に従い、降雨前の予防散布を実行する。

### 3 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
② 気象要因（＋）向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。  
(3) 防除上の留意点  
① 「県防除基準」に従い、降雨前の予防散布を実行する。

### 4 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 巡回調査ほにおいて5月下旬まで目立った発生はなかった。  
(3) 防除上の留意点  
① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。  
② 散布ムラが無いようにする。

### 5 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**  
(2) 予報の根拠  
① 向こう1か月の気象予報は気温が高い日が多いと予想されている。  
(3) 防除上の留意点  
① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し、必要に応じて殺ダニ剤を散布する。

② 散布ムラが無いようにする。

## 6 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査ほでは、新梢でみられ、全般に発生は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

① 寄生が見られたら、「県防除基準」に従って殺虫剤を散布する。

## 7 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 越冬世代幼虫による食害は認められなかった。

② フェロモントラップの誘殺時期は平年並となった。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い、適時に殺虫剤を散布する。平年の越冬世代成虫の発生時期は5月下旬から6月中旬である。

## 8 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 全般に発生は平年並～やや多い。

② 県予察ほにおけるナシヒメシンクイの誘殺開始時期は平年並みであった。

(3) 防除上の留意点

① 第1世代成虫の平年の発生時期は6月中旬頃からである。「県防除基準」に従い、適時に殺虫剤を散布する。

## 9 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数が平年と比べ多い。

② 向こう1か月の気象予報は気温の高い日が多いと予想されており、高温下ではカメムシの類の活動は活発になりやすい。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い、適時に殺虫剤を散布する。

## VII もも(ネクタリンを除く)

### 1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、発生がみられなかった。

② 近年発生がほとんどみられていない。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

### 2 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**やや多～多**

(2) 予報の根拠

① 6月上旬の巡回調査で発生が多かった。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

② 有袋栽培では早めに袋掛けを行う。

### 3 灰星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 5月上旬の巡回調査では、花腐れは認められていない。

(3) 防除上の留意点

① いずれの品種も収穫20日前頃からの防除が重要となるので、「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除する。

### 4 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップの誘殺数が多い地区がある。

② 巡回調査では寄生葉はみられていない。

(3) 防除上の留意点

① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を必ず散布する。

### 5 ハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 6月上旬調査では発生がみられていないが、平年並の発生量と推測される。

② 気象要因(一)向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

### 6 シンクイムシ類(モモシンクイガ)

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺は平年並。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬以降、定期的に防除する。

### 7 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では新梢被害はみられず、ほぼ平年並の発生量と推測される。

(3) 防除上の留意点

① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中旬頃に防除する。

## 8 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① フェロモントラップ調査では、平年より誘殺数が多くなっている。
  - ② 巡回調査では、果実被害はみられなかった。
  - ③ 気温の高い日が多いと予想されており、高温下ではカメムシの類の活動は活発になりやすい。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中旬頃に防除する。

## VIII ぶどう

### 1 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬までの巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。
  - ② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。落花期以降は花かす落としを励行する。

### 2 ベと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬までの巡回調査では、発生は認められなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の降水量は、平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布間隔をあげないように防除する。
  - ② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。

### 3 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査では、被害葉はみられなかった。
  - ② 気象要因 (-) 向こう1ヶ月の降水量は、平年と同様に多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 平年では、6月下旬頃から発生量が多くなる。「県防除基準」に従って薬剤を選択し、防除時期が遅れないようにする。
  - ② 防除実施後、できるだけ早く袋掛けを行う。

## VIII 野菜

### 1 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査では、中信地域の施設栽培の一部ほ場で発生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって施設内の湿度低下に努める。
  - ② 葉などに落ちた花卉から発病しやすいので、咲き終わった花卉の除去に努める。
  - ③ 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
  - ④ 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統、同一薬剤を連用しない。

### 2 トマト輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査では発生はみられなかったが、例年、この時期から発生が急増する。
  - ② 露地栽培では、気温が高く、降水量が多いと多発する。
  - ③ 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 「県防除基準」を参考にして、発病初期に防除を行う。

### 3 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査では、一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考にして、7～10日間隔で2～3回薬剤防除を行う。その後は発生状況に応じて適宜防除する。
  - ② 多発生してからは防除困難となるので発病初期から薬剤散布する。
  - ③ 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統、同一薬剤を連用しない。
  - ④ 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

### 4 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

- (2) 予報の根拠
- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
  - ③ 高温多湿条件で多発する。

(3) 防除上の留意点

- ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② 病斑上に形成される孢子により第二次伝染が起こるので、発病葉はすぐに摘葉し、処分する。
- ③ 前年発生したほ場では、残渣や資材に病原菌が付着しているので十分注意する。

## 5 キュウリ灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、南信地域の施設栽培の一部ほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- ③ 多湿条件で多発する。

(3) 防除上の留意点

- ① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② 病斑上に形成される孢子により第二次伝染が起こるので、発病葉はすぐに摘葉し、処分する。
- ③ 前年発生したほ場では、残渣や資材に病原菌が付着しているので十分注意する。

## 6 キュウリべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- ③ 多湿条件で多発する。

(3) 防除上の留意点

- ① 下葉で発病の著しいものは摘葉する。
- ② 降雨や灌水時の地表面からの水のはね上がりによって伝染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。
- ③ 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 7 アブラナ科野菜のべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、東信地域のブロッコリーの一部ほ場で発生がみられた。

- ② 低温多湿条件のときに発生が多い。
- ③ 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 8 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- ③ 降雨が多いと多発する。

(3) 防除上の留意点

- ① アブラナ科野菜の連作は避ける。
- ② 品種間差が大きいので、品種選定に留意する。
- ③ 育苗時の発生に注意し、発病苗は直ちに除去する。発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。
- ④ 発病茎葉は二次伝染源となるので早期にほ場外に持ち出して処分する。
- ⑤ 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 9 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では一部地域のキャベツ及びブロッコリーほ場で被害がみられた。  
また、フェロモントラップへの誘殺状況は、一部の地域で平年に比べて誘殺数が多いところがある。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② 薬剤感受性の低下を起こしやすいので、同一系統剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 10 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 近年発生が増加している。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 高温期は軟腐病が併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
- ② 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

③ 降雨が多いと多発する。梅雨期に発生が多い。

## 11 ハクサイ軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では場での発生は確認されていないが、例年この時期から発生が急増する。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 害虫の食害痕から発病しやすいので、害虫防除をする。
- ② 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ③ 高温多湿条件で多発する。

## 12 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の調査では、小諸市の県発生予察ほ場及び中信地域の一部巡回ほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② 結球始期から、2回程度防除すると効果が高い。

## 13 レタスべと病・菌核病・灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② いずれの病害に対しても、結球始期から2回程度防除すると効果が高い。

## 14 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、小諸市の県発生予察ほ場で発生がみられた。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- ③ 降雨が多いと多発する。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 15 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、例年、この時期から発生が急増する。
- ② 高温多雨条件で多発する。
- ③ 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
- ② 降雨前あるいは降雨後直ぐに薬剤を散布する。
- ③ 常発地・多発地では、排水対策を行う。

## 16 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。
- ② 防除は収穫打ち切り後、立茎完了までの期間が特に重要である。
- ③ 切り株や残さについての病原菌が伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染するので、残さを除去し、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
- ④ 病茎は早期に刈り取り、穴を掘って埋めるなどの処分をする。
- ⑤ 気温が高く、降水量が多いと多発する。

## 17 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では発生はみられなかったが、中山間地域の一部ほ場では、発生がみられた。
- ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 18 アザミウマ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、一部地域の施設栽培のきゅうり及びいちごで寄生がみられた。また、一部地域のアスパラガス、ねぎ及びたまねぎで寄生が目立つところがあった。



- ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 育苗期又は定植時に適用のある薬剤を使用する。
  - ② 寄生が確認されたら、多発する前に「県防除基準」を参考にして防除を行う。
  - ③ アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が違うので、防除を実施したら効果を確認し、効果の低い場合は系統の異なる剤で防除する。
  - ④ ほ場周辺の雑草に寄生し発生源となるので、雑草防除等ほ場衛生を心がける。

## 19 アブラムシ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部地域の施設栽培のトマト及びきゅうり、露地栽培のトマト、すいか、はくさい、アスパラガス及びきくで寄生がみられた。また、小諸市のレタスの県発生予察ほ場で寄生がみられた。
  - ② 気象要因 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 寄生が確認されたら、多発する前に「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 20 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部地域のたまねぎ及びねぎで寄生がみられた。また、小諸市のレタスの県発生予察ほ場で寄生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並か高い見込みと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 苗床での防除を徹底する。
  - ② 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
  - ③ 収穫後は、残さの処分を徹底する。

## 21 オオタバコガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では被害はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。
  - ② 系統の違う薬剤を、ローテーションしながら散布する。
  - ③ 結球野菜では、結球始期を中心に1週間間隔で2～3回防除を行う。

## 22 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では被害はみられなかった。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 「県防除基準」を参考にして防除を行う。

## 23 ハダニ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月上旬の巡回調査では、一部地域の施設栽培のきゅうりで発生がみられた。
  - ② 気象要因 (+) 向こう1ヶ月の気象は平年と同様に曇りや雨の日が多く、平均気温は平年に比べて高いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
  - ① 施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。
  - ② 被害の早期発見に努め、発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」を参考にして防除を行う。